

Profile プロフィール

前田 良 (まえだ りょう)

1982 年生まれ。小さい頃から性別に違和感をもっていた。

2008 年、性別適合手術を受ける。戸籍上の性を「男性」にして結婚。AID（非配偶者間人工授精）で子どもを2人もうけるが、出生届が受理されず、東京家裁に「戸籍訂正許可申立て」を行い、裁判を始める。一審、二審とも棄却されるが、2013 年に最高裁で逆転勝訴。「父親と認められる。」

現在は、多様な性を認め合える社会の実現をめざし、家族とともに全国各地で講演活動を行っている。



底に落ちて、その時がすごくつらかったので、そのつらさを上回ることがないんです（笑）。でも世の中はまだまだ偏見や差別的な発言もあるし、「男はこうだ」「女はこうだ」というように決めつけもあって、僕らのように性で悩んでいる人たちにもう少し配慮があってもいいなと思います。トイレひとつとってもそうですよね。

さらに、やっていけないといけないことはあります。それは子どもたちのことです。今後、僕の子どもたちは、差別や偏見、いじめを受けるかもしれません。でもそれをどれだけ最小限に抑えられるか、闘わずに生きていけるか、ということの方を考えるようになりました。僕の子どもだけでなく、子どもたち全体を守らないといけないですね。

少数派が生きやすい社会は、 みんなも生きやすい社会

性に悩んでいる人、性的マイノリティの人たちがいるということをまず知ってもらいたいです。まだまだテレビの世界と考えている人も結構いると思います。でも身近に本当にいるし、出会ってもらうことが大事だと思います。そこからこの人たちだけの問題ではない、みんなであらう、という思いになってもらえたらいいですね。

もし学校で、性に悩んでいる子どもがいたら、その子を特別扱いしてほしいということではないんです。例えば、学校の中だと着替える場所があげられます。傷があるから着替えられない、恥ずかしいから着替えられないと思っている人もいます。もし人に見られないように配慮された場所があれば、みんなが救われるんです。少ない人たちのことを考えることによって、多くの人を救われるんです。性に悩んでいるかいないかは関係なく。

そういうことを変えていくには、性に悩んでいる人たちがいるということを知らないと始まらないですね。

そこから気づきが生まれるんです。最終的に「変えていこうよ」と行動を起こしてくれる人が一人、二人と増えていくと救われる人も増えてくるんです。理解してもらわなくてもいいんです。知ってもらうことですね。そもそも理解なんて難しいですから。それよりも知ってもらい、性に悩んでいる人の生の声を聞くことが大切だと思います。

いろんな生き方があることを知ってほしい

性別で決めるのではなく、個性を見てほしいと思います。赤い服を着たかったら、着たらいいじゃん。男の子でスカートをはきたいなら、はいたらいいじゃん、と思います。その子はその子でいいじゃん！という世の中になればいいと思います。

勘違いしてほしいくないのは、僕らみたいな人も幸せに生きていくことができるんだということですね。性的少数派で生きていくことがつらいこと、苦しいこと、かわいそうなことと思わないでほしいです。でも、そうさせてしまっている社会があると思いますが・・・。

多様な性について本当のことを知ってもらうため、全国各地で講演活動をしています。講演会では、正直にこれまでのことを話しています。小学校でも子どもたちに「多様な性」、いろいろな人がいることを話します。子どもたちは驚き、素直な反応をしますね。ただ大人たちは、子どもたちのようにすんなりと話が頭に入っていくのは難しいと思います。ですが、今まで生きてきた中で出会ったことがない人（性的マイノリティの人たち）に出会い、こんな人もいるんだと思ってもらえればそれでいいと思います。知らなかったことを知る、聞かなかったことを聞くことで、これまでとは何かが違うはずで、少しずつでも変化があればそれでいいと思います。そして、心のどこかに残ればそれで十分です。自分らしく生きることが大切だと思います。